

書く文化



山之内 優希さん(南方)

江村 幹哉さん(北方)

文化とは受け継ぐもの

全国高校書道パフォーマンス選手権大会の地として有名な愛媛県。県立東温高校の書道部に在籍する2年生の2人は東温市在住です。水泳部と兼部(2つの部活動に所属すること)している江村さんと、愛媛県高等学校総合文化祭で優秀賞(全国大会推薦)を受賞する腕前を持つ山之内さんは、高校生らしく文化について考えます。「2学年上の先輩が卒業したあと、書道部は2年

の2人になりました。私たちが考える文化は、受け継いでいくのは大変だけど、昔のことを真似するだけじゃなくて、新しい工夫や今の自分たちの考えを取り入れて、次の世代に繋いでいくものだと思います。今まで培った技術やアイデア、考え、もの見方などを引き継いでいくことで新しい価値観に出合えるものが文化だと思います」と次の世代への期待を込めて話してくれました。

(2人の作品) 左: 瑞祥新春 右: 新年大吉

祈る文化



雨乞いという文化
昔、雨が降らない日が続く早魃は、農家にとってとても苦しいものでした。そこで人々は、「雨乞い」という雨を降らせてもらうお祈りの儀式を行っていました。市内各地で、その様子が違いがあり、例えば松前町の海水を汲み、河之内地区にある雨瀧に奉持することで、雨瀧の竜の神様を怒らせて雨を降らせていたとか。往復約58kmの道を、直射日光を浴びながら海水を持って歩いていくことは容易ではなかったことでしょう。儀式に使用したお面も伝えられており、市の景勝地と併せて歴史を紐解くのも面白いですね。

[Info] 津軽三味線コンサート

～神谷茂良 西日本初公演～

結 MUSUBI

3月23日(土) 開場15時30分～

中央公民館 大ホール 全席自由
前売券 3,000円 当日券 3,500円
小学生以下無料(※電話予約必要)
☎ コンサート実行委員会 ☎090-6424-1366

片山 慈さん(則之内)



で、できる限り頑張って続けていきたいと思っています」と、笑みを浮かべていました。

文化を考える

特集

皆さんにとって「文化」とは何でしょう?多くの文献でその定義が議論されていますが、文化は、次代を担う青少年の健全育成、世代間の交流、地域コミュニティを育み、活力に満ちた東温市のまちづくりに不可欠なものです。

創造的で多様な価値観を認め合うまちを目指す東温市では、誰もが文化・芸術に親しむことができる機会の創出や活動を進めています。今月の広報とうおんは、文化がテーマ。活動する皆さんや市の文化財をご紹介します。読者の皆さんにとっての「文化」とは、何でしょうか?



生きる力をもらえる三味線

津軽三味線奏者の片山さんは、文化を「娯楽でないだめだと思います」と話します。生きていくうえでは楽しみが必要で、だからこそ文化は廃れない、無くないものと考えられる片山さん。「津軽三味線は元気をもらえるものです。昭和初期に形作られたメロディラインが今も変わらず伝わっているのは、どの時代にあっても人の心を

打つからでしょう。とても力強く、繊細な奏法で音色を創りあげる一方で、切なさ、哀愁を漂わせるところも魅力です」と楽器が生まれた風土、歴史を想いながら、話してくれました。

皆で集まって楽しむことが大事ですね
大正琴すみれグループは、他のグループと一緒にながらも17年活動を続けています。大正琴を40年以上続ける、先生の石丸さんは、公民館などで教室を開いており、多いときは200人ほどの生徒さんを教えていたこともあったそうです。



奏でる文化

石丸 愛子さん(上村)



現在、生徒の最高年齢は97歳。「大正琴の優しい音色が大好きです。グループがあるから用事ができず、寝たきり予防に繋がっていると感じます」と生徒さんは話します。講師の石丸さんは「みんなが集まって楽しんでいることが一番の魅力です。合同練習の時は30人くらい集まるんですよ。やめようかと思った時もありましたが、生徒の皆さんが「やめたら困ります」と嬉しい言葉をかけてくれるの

Interview



東温市文化協会
会長 大西 としえさん



元東温市文化財保護審議会
会長 和田 義雄さん

人生 100 年時代を豊かに

長い人生を多様性に満ちた豊かなものにするために、環境を変えて多様な人と触れあうこと、遊びを愛でる心のゆとりが大事です。目に見えない本質的な価値、知識やスキル、仲間とのネットワークといった無形資産の形成には、仕事をしながら地域貢献や趣味、新しいスキルの習得に時間を割く。趣味や学習、文化のトピラは、常に身近に門戸を開いています。いざ、たいてみてはいかがでしょうか。

文化財は未来のためのもの

文化財は、その時代に行われていたことの存在証明であり、文化を知ることは郷土愛を深め、良い人間関係を築いていくことに繋がります。過去というのは、今の生活と比較することで自分の行いを改めたり、将来に渡り人間の生活を続けていくためにとても大切で、未来に繋がるものです。

「なぜこれはこうなっているのか?」。否定するのではなく、疑問をもって調べてみると、きっと新しい世界に出合えると思います。

(特集おわり)

出前講座や団体での施設利用も承っています。お気軽にお問い合わせください。



歴史民俗資料館
学芸員 萬

れきみん企画展示「昭和の衣食住」

期間 5月18日(土)まで
9時~17時15分

れきみんロビー展示「かぶり物事情」

期間 1月13日(日)まで
9時~17時15分

休館 毎週月曜(祝日の場合は開館)
第3日曜・月末・年末年始

〒歴史民俗資料館(☎964-0701)

今回の展示のように「衣」「食」「住」に分けて昭和をみると、どの場面にも時代が経験した大変革の跡が見られます。昭和が終わり、平成に移行して30年が経ち、その平成も終わろうとしています。1つの時代が終わろうとしている今、過ぎ去った昭和という日常を改めて眺めてみませんか?入館は無料です。



ねり行事
牛瀨地区の浮嶋神社の秋祭りでは、松山地方では他に例のない「おねり行事」が行われます。宮出しの儀式が行われ、神輿が宮出しされると「おねり」が進められます。西御旅所―厳島御旅所―堀池御旅所までのおよそ

感謝する文化

1kmを小学生や大人がいろいろな道具を持って練り歩きます。行列の順序も進み方も決められています。御旅所に着くと神輿をすえて厳かに祭りの儀式が行われます。4人の舞姫の「豊栄の舞(ほうえいのまい)おとめ舞」、4人の相撲力士の土俵入り「大和体操(やまとばたらき)」、獅子舞などが見物する人の目を楽ませてくれます。夕方からは、御旅所から神社へとひきかえす「ねりもどし」が行われて行事は終わります。
100から150年前には行われていたようで(起源不詳)、鮮やかな装束の獅子や振り奴、御輿など大勢の行列が練り歩き、なかでも、化粧まわしを着けた4人の力士によって行われる土俵入りは、見事な演技です。市の無形民俗文化財に指定されています。



まちの歴史探索に...
歴史民俗資料館が面白い!



昭和期に着られた服

東温市内でも多くの文化活動、文化財が存在しています。毎年10月末から11月には公民館で文化祭が開催されており、いきいきと活動する皆さんが印象的でした。皆さんも是非、足を運んで文化に触れてみてください。
では、東温市で育まれた地域文化についての歴史や資料などはどこへ行けば分かるのでしょうか?東温市には、市立図書館本館3階に「歴史民俗資料館(通称れきみん)」があります。れきみんでは、発掘調査で出土した遺物や、昔の文書、農具をはじめとするさまざまな民具など、東温市の郷土文化に関する歴史資料を収蔵・展示しています。



かわいい形のランプ



黒電話は体験可能



ちゃぶ台や...



湯たんぽもあります



これはオープン

64年続いた昭和という時代は、日本人の暮らしを大きく変えた時代でもありました。戦後、欧米の生活様式が大きく影響したことがきっかけの一つとして挙げられます。そして高度経済成長と国際化、情報化という世情の中で日本人の生活はさらに変容します。

資料館第2展示室では、期間を定めた企画展示を実施しており、5月18日(土)までは「昭和の衣食住」と題して、昭和初期から50年代に使われた暮らしの道具を紹介しています。